

## 授業改善等に関する報告書（2021 年後期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー b	稲垣 伸一	履修者全員がとても真剣に卒論に向かい合ってくれたと思っています。ですのでこちら側もとても授業が進めやすかったです。ありがとうございました。 卒業後もアメリカ文学に関心を持って作品を読んでくだされば理想的ですが、たとえそうでなくとも卒論に取り組んで身につけた、自分の考えを正確に伝える文章力は今後も必要な能力だろうと思います。みなさんが卒論執筆により身につけたこの能力をどうか将来に活かして行ってください。
イギリス文学・文化演習 h	志渡岡 理恵	3~4年生の演習科目。教員がmanabaにイギリスの旅行文化に関する論文や図書の書誌情報をアップし、受講生はそれらや自分たちで集めた資料を用いて、毎回3人グループ×3組がパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った。各グループのプレゼンテーションの後、教員がコメントし、受講生は全員コメントをmanabaのレポートに提出して共有した。どのグループも驚くほど優れたプレゼンテーションを行い、受講生のコメントも熱のこもった長文が多かった。43名中32名が回答し満足度は4.59だった。 授業アンケートにも「女性と旅の関係について多方面から知ることができた」、「自分で調べて人にわかりやすいように説明する力がついた」、「プレゼンを準備したり他の受講生のプレゼンを聞いたりして色々な角度から女性と旅行の文化について学ぶことが出来ました」、「グループワークで協力しあい、それぞれの視点を話し合うことで視野が広まった」、「グループの仲間とプレゼンの内容を調べまとめる取り組みを通して、分担したり協力して取り組む力が身についた」などのコメントが多数寄せられた。
言語習得論	猪熊 作巳	理論的な内容に苦戦した学生も多かったようですが、子どもの言い間違いという身近なトピックを真摯に考えることで研究が広がっていくことを感じてくれていればと思います。
英文入門セミナー	稲垣 伸一	英文学科の三分野についての講義・リーディング、そしてグループ・プレゼンテーション、どれも総じてみなさんたいへん前向きに取り組んでくれたと思います。2年生になると専門科目が増えますので、三分野の内容やレポートの書き方などこの授業で学んだ内容を思い出して今後の授業に臨んでください。
英語学演習 b	猪熊 作巳	非常に難解な内容で、授業運営上改善すべき点に気付かされたことも多々ありましたが、自分の手を動かしながら学問的な営みに取り組む姿勢の重要性を感じてくれていればと思います。
Basic Grammar b	柳田 亮吾	この授業では、教科書を使いつつ、高校までにならった文法をおさらいし、その知識をもとに簡単な長文を読むことを目的としました。 授業中の受講生の皆さんの様子やアンケートの結果を見ると、文法自体の説明をもう少し時間をとって丁寧に解説した方が良かったかもしれません。受講生の中で英語の習熟度に少しばらつきがあり、文法をどれくらい説明するべきは、今後もよい方法を考えたいと思います。 また、授業では毎回簡単な長文を読んでいましたが、この部分は時間的に一言一句訳を確認するといったことができず、理解するのが難しい部分もあったかもしれません。こちらの意図としては、宿題としてわからない単語は調べてきてもらって、その上で授業中に文法的にわからないことを説明したかったのですが、英文・長文を読むスピードや理解度も個々の受講生の間でばらつきがあったように思います。こちらもう少し良い方法を今後考えたいと思います。 小テスト、中間・期末テストの結果があまり芳しくなかったのも、テストは少し内容が難しかったですね。この点は大いに反省して、今後はもう少し点数が取れるような内容のテストを作成したいと思います。 また、今回パソコン演習室を用いて、授業中はOneNoteというアプリを用いました。これからの時代、英語でのコミュニケーションに加えてPCで作業するスキルは必須になると思いますので、あえてこの形を取ったのですが、PCに慣れていない人には少し大変だったですかね。英語の授業ではありますが、もう少しPCの活用法についてもお話しできればよかったです。
Intensive Reading b	土屋 結城	英語でのリーディング能力向上を目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.67~4.83の評価を得た。授業の目的、内容に関して理解を得られたと思う。一方で、学修時間については課題が残った。授業の性質上、予習時間を増やせるような取り組みを今後心掛けたい。また、英語力が本当に向上したかどうかは満足度の調査からは分からないので、その点は引き続き観察が必要と思われる。

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学演習 d	柳田 亮吾	<p>この授業ではIntroduction to Sociolinguisticsを読みながら、社会言語学・談話分析の基礎を学び、最終的に自身で談話分析を行うことを目的としました。3年生向けの演習ということで、英文で書かれた専門入門書を用いましたが、少し内容が難しいと感じた受講生もいたようですね。こちらもリーディングを扱う前後に解説をしたり、日本語で書かれた参考資料を配布するなどしてフォローをしたのですが、もう少し丁寧に解説してもよかったかもしれません。</p> <p>授業は少人数と言うこともあり、なるべくinteractiveになるよう、発言しやすい雰囲気を作るよう心がけ、授業毎に一人一回は意見を述べてもらうよう機会を設けました。受講生の皆さんは、リラックスして授業に臨んでくれたようで、よいコミュニケーションが取れたと思います。また対面の授業がほとんどでしたので、ペア・グループで協働ができる時間をなるべく多くとりました。受講生の皆さんが協力して授業をつくりあげてくれたと思います。ただ、ペア・グループが固定化してしまっていたので、たまには違う人（達）と話をする機会を作ればよかったと思います。</p> <p>授業ではOneNoteを用い資料を配布し、受講生の皆さんにはノートPCを持参してもらう形で進めましたが、皆さん問題なく参加できていたと思います。</p>
卒論セミナー b	村上 まどか	<p>この科目のアンケートは答えないので最初から答えない人が多い中、お答えくださった学生さんは、ねぎらいの言葉をくださりありがとうございました。私自身、毎年新しい発見があり、学生とともに学んでいます。</p>
英語学講読演習 b	村上 まどか	<p>いただいた3名（のみ）の評価は、後半は、専門書をアトランダムに当てて訳させるという荒療治（？）に出た割には、好評で安心しました。週当たりの予習復習時間は回答が割れましたが、全員が「2時間以上」であるべきところ、「30分以下」という人がいたのは、悲しいものがあります。</p>
Paragraph Writing b	柳田 亮吾	<p>この授業では教科書に沿って文法項目のおさらいをして、それぞれのチャプターのテーマに関連したパラグラフを英作することが目的でした。教科書の文法の説明は少し簡単すぎるかなとも思ったのですが、チャプター終わりの小テストの結果を見てみると案外ミスも多かったので、授業では少し時間をかけて説明しました。この辺りは授業中の様子を見ていても、あるいは今回アンケートで頂いたコメントでも、意見が分かれていたと思います。授業中の説明が丁寧でわかりやすかったという人もいましたが、一方でもう少し授業スピードを上げた方がよかったという人もいて、受講生の英語のレベルが異なることもあり、このあたりの調整は難しいところですが、今後の課題としてよりよい方策を考えたいと思います。</p> <p>授業の形態については、対面での授業がほとんどでしたので、可能な限りペア・グループワークを取り入れることを意識しましたが、この点はよかったと思った受講生の方が多かったようで、何よりです。ただ、個人で作業ができる部分もあったので、そのあたりの授業形態をどうするのかは、私の一存では決められないところもありますが、今後考えたいと思います。</p> <p>いくつかご批判も頂き、下記の点については今後改善できる部分は改善したいと思います：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出したパラグラフの添削が遅い→おっしゃる通りですね。これはもう少し早く返せる致します。ただ、学期の最後に時間をとって訂正するというのは、これまでの総復習にもなるので、その意味では意義があったのではとも思います。</li> <li>・名前を憶えてほしい→名簿で指名していくのではなく、マイクを回していく形を取ったので、名前を覚えるのに少し時間がかかってしまいました。申し訳ないです。</li> </ul>
イギリスの文化と社会	志渡岡 理恵	<p>講義でオンデマンド。毎回パワーポイントと補足プリントのPDFをmanabaにアップし、課題提出という形式をとった。対面でないため直接反応を確認できない点が不安だったが、説明および資料のわかりやすさはともに4.41だったので安堵した。満足度は4.36だった。</p> <p>「今までなんとなく知っていたものが、たくさんの資料を通して、効率よく勉強できた」、「資料を丁寧に読み込もうという意識が強くなりました」、「他の授業と結びつけながら学ぶことができた」、「特にイギリスの女性について学べて面白かったです」などのコメントが寄せられた。知的好奇心をもって取り組んでくれた受講生が少なからずいたようで嬉しいが、補足プリントの情報はかなり多かったと思うので、ひとりで読むのはきついつと感じた受講生もいたかもしれない。</p>
イギリス文学史 b	土屋 結城	<p>18、9世紀から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を理解し、それとともにイギリスの文化、社会についての理解を深めることを目標とした授業である。アンケートの回答率がそう高くはなかったが「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.47~4.59の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関する理解は得られたと思う。今後の課題としては、双方向性の確保と、事前事後学修の充実並びに学生の関心を継続できるような工夫をすることが挙げられる。オンデマンド授業における双方向性に関しては、フィードバックの充実を今後も図るなどして改善したい。また、学生の関心を喚起できるような関連資料も積極的に紹介していく必要があると思う。</p>

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ことばと社会	柳田 亮吾	<p>この授業では教科書を読み進めつつ、社会言語学の基礎を学ぶことを目的としていました。教科書は専門的な内容なので、少し理解が難しかったところもあるかと思いますが、講義では具体例を出しつつ、YouTubeの動画なども参考にしながら、わかりやすさを意識しつつ進めました。また、授業毎に前回の授業内容の復習をする時間を設け、受講者からの質問にも答える形で進めました。授業アンケートでは概ね説明はわかりやすかったと評価を頂いたようですが、それでもやはりまだ難しかった部分もあるかと思うので、来年度はさらにわかりやすくなるよう講義の内容・仕方を考えたいと思います。</p> <p>この授業はオンデマンド方式なので、動画を配信し、受講生の皆さんにはコメントペーパー・課題を提出してもらって進めました。対面授業とは異なりオンデマンド授業では質問がなかなかしにくいと思いましたが、コメントペーパー・課題では毎回質問を募集し、時間が許す限り授業中に質問に回答しました。また、他の受講生との意見交換が難しいというオンデマンド授業の欠点を補うため、コメントペーパー・課題の一部は匿名にして受講生と共有することで疑似的な意見交換の場を設けました。この二点については好評価を頂いたので、今後も続けていきたいと思えます。ただ、時に講義動画の時間が長くなってしまいうこともあり、集中力が続きにくかったとのご意見もあつたので、来年度は動画の時間をもう少し短くできるように考えたいと思います。</p> <p>また、この授業では中国・ベルギーから来日し、日本で教鞭をとっている先生二人をお招きしてそれぞれの国における言語事情についてお話を聞く機会を設けました。この公演はとても評判がよく、受講生の皆さんは学ぶことが多かったようなので、来年もさらに工夫を凝らして面白い内容にしたいと思います。今回講演は事前にビデオで録画したものを配布する形を取りましたが、来年は社会事情を考慮しつつ、可能であれば対面での実施の可能性も考えたいと思います。</p>
英文入門セミナー	猪熊 作巳	<p>授業内外を問わず、ICTスキルを駆使しながら主体的に学ぶ態度が良く感じられるクラスでした。今後がんばってください。</p>
Basic Grammar b	金田 迪子	<p>アンケートにご協力下さった履修者の方には誠にありがとうございました。本授業は今年度が初の担当となり、慣れない授業運営で申し訳ございませんでしたが、履修者の皆さんには大変協力的に授業にご参加いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>アンケートについては望外の評価をいただき大変嬉しく思っています。特にIII-13の設問について、専門分野への興味関心を持って下さった方が当該区分平均・全体平均をわずかに上回ったことを大変嬉しく思います。履修者の英語に対する理解力が非常に高いクラスを運営するのにあたり、リメディアル（中学・高校の英文法の知識の復習）で完結するのでは不十分と考え、上級者向けの英文法の理解や、その先にある英語論文講読への橋渡しとなるような内容を考えましたが、履修者の皆さんが知的好奇心をもってそれに応えて下さったことにより背中を押されました。特に最終課題ではクラスの皆さん全員が、構文の分析のみならず、自分の力で英文法の術語を使って説明を行う段階に至り、英語を学ぶだけでなく自分以外の人に教えるという学習者としての次の段階に到達されたことを嬉しく思っています。</p> <p>私自身の英語や英文法の知識の不十分さや、授業運営の経験の不足により、まだ沢山の課題の残る科目ではありますが、皆さんとの授業の経験を基に、英文学科でしか受けることのできない英文法の授業を行えるように検討と改良を重ねていきます。今年度の履修者の皆さんには本当にどうもありがとうございました。</p>
Academic English	志渡岡 理恵	<p>3年生必修の演習科目。習熟度別クラスで、テキストは学科指定のもの。リーディングとライティングの力を養成するのを主眼とする授業。受講生も教員もマスクを着用していたので、声が聞き取りにくい場面もあったが、説明のわかりやすさは4.59だったので、意思疎通はうまくできたようだ。真摯に取り組む受講生が多いクラスという印象だった。満足度は4.59だった。</p> <p>リーディングについては、文章の構造を理解し、効率的かつ正確に内容を把握する訓練を行い、ライティングについては、長い文章を要約する練習を行った。「文章の構成の仕方がわかった」、「どこが大切な文章なのかを判断し、長い文章を要約する力がついた」、「英文の要約のコツをつかめた」、「英文の読解力が身についた」、「要点を押さえる力が磨かれた」などのコメントが寄せられたので、目標はかなり達成できたようだ。</p>
英文法論	村上 まどか	<p>平均的な評価しか得られませんでした。私が力を入れている科目ではありますが。動画をもっと多くしてほしいようですので、今後の改善点といたします。しかしこの科目は、対面で実施出来たら、確認の英作文にも直接答えてもらえるし、対面に越したことはない科目です。この科目に、自分のテキストを書くことが夢です！</p>

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文入門セミナー	柳田 亮吾	<p>この授業では実践入門セミナーに引き続き、レポートの書き方を学ぶことを主眼としつつ、英文学科の専門分野である英語学・言語学、アメリカ文学・文化、イギリス文学・文化でどのようなことを学ぶのかについて知ることを目的としました。授業形式はオンデマンドと対面を織り交ぜた形になっており、受講生の方が受講しやすい形になっていたかと思えます。対面時はその利点を活かし、受講生の皆さんになるべく発言してもらおうようになるべくペア・グループワークを取り入れましたが、この点は評価してもらえたようで良かったです。</p> <p>対面の際に読んだ英文のリーディング・マテリアルについては、授業の様子を見てみると、少し理解が難しかったようですね。英語で読む難しさと専門的な内容を理解する難しさの二つがあったかと思うのですが、後者についてはこちらから補助的な資料などを事前に配るなどするとよかったかなと思います。今回はリーディング・マテリアルを事前に読み、その内容を要約するという宿題を課していましたが、こちらの意図としては英文で専門的な内容を読むことに慣れてほしいのと、要約することでレポートを書く力を養ってほしいという思いからでした。ただ、この宿題は量が多く負担だと感じた受講生もいれば、英語の文章を要約する力がついてよかったと感じた受講生もいるようで、今後少しやり方を考えた方が良いでしょう。また、受講生の間でリーディング・マテリアルの予習の度合いや理解度にも違いがあり、それをどのようにすり合わせていくかという問題もありました。どのようにしたら全員が満足できる授業内容にできるか、今後よりよい方法を考えたいと思います。</p> <p>グループ発表は、皆さんグループ内で協力して、よい発表をしてくださいました。一方、準備に際してグループ内で貢献度に差が出たとのコメントもあり、ここはもう少し教員側からの介入も必要だったかなと思います。</p>
アメリカ文学・文化演習 f	佐々木 真理	<p>やや難しい内容の題材を取り上げたにもかかわらず、皆さん毎回熱心に小テストに取り組み、ご発表にも一生懸命取り組んでおられました。時代も国も異なる女性たちの考えや活動から、いろいろなことを学んでいただければと思います。</p>
Academic English	村上 まどか	<p>平均的な評価でしたが、総合的に満足されたならば、よしといたします。Academic English は高度な英作文を目指しているため、「基礎が身に着いた」「予習復習の習慣がついた」のような感想は、3年次後期としては少々がっかりで、SEクラスだからと言って手加減しすぎだったか、もっと高度な、小テストでも取り入れればよかったかと反省しております。</p>
卒論セミナー b	猪熊 作巳	<p>アンケート回答数ゼロのため割愛。</p>
卒論セミナー b	難波 雅紀	<p>前期の「卒論セミナーa」では、主にZoomを使った個人指導をとおして卒論のテーマや題材を確定させ、論文の構想・構成を各自で練り上げることに取り組みました。後期の「卒論セミナーb」では、前半の授業は対面で行い、練り上がった論文の構想・構成をより具体化し、卒論の目次をまず作成しました。その上で、後半の授業はZoomを使ったオンラインでの指導により、目次に沿うような流れで論文原稿の執筆と推敲を重ねていきました。ひとり平均10回の個人指導を行ない、最終的な卒論完成に至りました。</p> <p>卒論作成に係わって多くある誤解は、原稿を書くという行為が作業全体の大半を占めるというものです。原稿用紙換算で50枚以上になる文章をひとつのテーマで書くためには、事前に、テーマと題材の結びつけ方、それを具体的に論じていくストラテジー（戦略）を入念に立て、それに係わる資料の収集と整理を十分に行なう必要があります。そして、実はそれに費やす時間や労力の方が、文章を書く行為に割くよりも圧倒的に多いのです。卒論作成を首尾よく進めるためには、まずこの事実をしっかり認識しなければなりません。</p> <p>そういうわけで、書く前提として不可欠な上記の作業にあまり重きを置かなかった学生は、実際に文章を書いているうちに、何をどう書けばいいのか分からなくなってしまう、立ち止まってしまふことが多かったように思います。文章を推敲したくても時間がなかったのではないのでしょうか。</p> <p>書くということは、自分の語彙で自分の内面や考えを上手く他者に伝える、人間にとっての必須の手段だからです。言葉は儂いし脆いものですが、そのことを分かって丁寧に、誠意を込めて書くことが大切です。</p> <p>以上</p>
英文入門セミナー	諏訪 友亮	<p>評価は概ね良好でした。レスポンスによる出席については、不正が起こらないよう、2・3分でカードを閉じる等の対策を取りたいと思います。また、レポートのコピー・アンド・ペースト禁止は来年度以降も繰り返し注意喚起します。</p>
Basic Reading b	志渡岡 理恵	<p>1年生必修の演習科目。習熟度別クラスでリーディング力を養成することが主眼。Aクラスだったため、英文の内容を理解するだけでなく、そこから自分の意見を何かしら発信するところまでもっていかうと考え、発表形式にした（発表者はハンドアウトを作成。担当箇所の要約、語彙の説明、重要だと思った箇所の英文＋和訳＋コメント等）3年生はこの形式を問題なくこなすが、1年生には早すぎたかもしれない。戸惑いが見られた。35%の回答率で満足度は3.64だった。各発表者に受講生全員がmanabaでコメントしたが、コメントも短いものが多かった。中には優れた発表もあり、「読解力がついた」、「要約する力がついた」などのコメントも寄せられたが、教員の説明・介入をもっと増やすべきだった。</p>

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化講義 b	島 高行	アンケートに回答してくれた皆さん、ありがとう。 毎回のレポートが大変だったでしょうが、受講生の皆さん、よく頑張ってくれました。こちらもいろいろと発見がある授業でした。これから、映画やドラマを見るときに、今回の授業で学んだことを応用して理解してくれればうれしいです。
Academic English	土屋 結城	3年生後期の必修科目ということで、卒業論文につながるような英語でのライティング能力、リーディング能力を中心に全体的な英語のスキルアップを目的とした授業であり、授業アンケートでは、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.79~5.00の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、英語運用能力のさらなる向上が挙げられる。特にライティングの指導を手厚く行っていきたい。
卒論セミナー b	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業であり、アンケートの回答率は低かったが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「双方向授業等の工夫がなされていたか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目ですべて5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。課題としては、アンケートの回答率を上げるために告知に十分な期間を取ること、並びにさらに専門的に学びたいと思うような意識づけをすることが挙げられる。
イギリス文学・文化講読演習 b	土屋 結城	チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』を読み、作品の読解並びに19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.80~5.00の評価を得た。対面になったり、オンラインになったり、と授業形態が途中で変わったが、概ね、授業の内容や目的についての理解は得られたと思う。今後の課題としては、アンケートの回答率の改善が挙げられる。授業時の告知を手厚く行いたい。学修時間に関しては、比較的確保されているようなので、現在の取り組みを続けるとともに、参考文献をより幅広く紹介するなどして改善を図りたい。
Intensive Reading b	砂田 緑	内容が多く授業のスピードが速かったと感じた学生がいました。学生の理解に応じて扱う範囲を狭めることも必要でした。また、感染対策としてペアワークなどを減らして解説や個別のワークを増やしましたが、学生の理解度をモニターできるように今後工夫が必要と感じました。
卒論セミナー b	佐々木 真理	皆さん、1年間本当にお疲れ様でした。 無事に卒業を迎えられて何よりです。  卒論を執筆する過程で学んだことが、少しでも今後の人生における糧となりますように。
Paragraph Writing b	猪熊 作巳	基礎力としての文法理解と応用力としての文章構成力をいかに結びつけるか、という観点をつかんでくれた学生も多かったように感じます。
女性と英語圏文学 b	佐々木 真理	アメリカの女性作家の活動と作品を通して、アメリカの女性たちの歴史や当時のアメリカ社会の情勢に関する知識と理解を深めることができたというコメントを嬉しく拝読しました。この授業で学んだことが、皆さんの今後の人生における糧となることを願っています。
イギリス文学・文化演習 d	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、ありがとう。 受講生の皆さん、一限の授業で、毎回の予習も大変だったと思いますが、よく頑張ってくれました。もう少し教室で、皆さんと議論できればよかったと反省しています。これからの学びに役立てば幸いです。
英語学概論 b	村上 まどか	コメントは賛否両論いただきました。私の担当する科目の中では、評価が最も低いものでした。最もいけなかったのは、昨年度でいねいに作成したとはいえ、同じ動画の使い回しでしょうか。次回はテキストも変わることで、作り直すようにします。説明が分かりやすいと分かりにくいに意見が割れましたが、小テストが6割とれない人たちが20数名いたということで、後者のほうで受け止めて動画作成を改善いたします。
卒論セミナー b	島 高行	卒論執筆は大変だったでしょうが、皆さんよく頑張ってくれました。それぞれが自分のテーマを決めて、課題と取り組んでくれたことは何よりも大事だと思います。これからもここでの学びを活かしてくださるよう願っています。
卒論セミナー b	志渡岡 理恵	後期の卒論セミナーは、個人面談と中間発表。授業がすべて終わり、口頭試問が完了してからmanabaで授業アンケート回答を呼び掛けたためか、回答者が22名中5名と少なかった。タイミングが難しい。しかしながら、満足度は5.0で、「理論的に考える力や論文の書き方が身についた」、「一から自分でテーマを見出して、そこから自分のやりたいことは何なのかということを見つけ出す力がついた」、「相談しやすかった」、「先生のような角度からのアドバイスのおかげで、無事卒業論文を書き上げることができました」などのコメントをもらえたことはよかった。

[2021（後期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Academic English	佐々木 真理	英語を読んで聞いて書いて話す、という課題の多い授業でしたが、皆さん熱心に取り組んでくれました。やや難しめの内容の英語を読み、それについて考え、自分の意見を英語で書く、という作業で培った能力が、4年生の卒業論文執筆につながることを願っています。
英文入門セミナー	島 高行	アンケートに答えてくれた皆さん、ありがとう。前期も含めて、一年間、大変だったと思いますが、ここで学んだことを活かして、これからの学びに役立ててくれることを願っています。
アメリカ文学史 a	稲垣 伸一	小テストの回答やレポートを採点して、履修した学生さんの多くがたいへんよく動画を視て授業の内容を吸収しようと努力していたと感じました。今後、演習などで個々の作家を扱う授業を受ける機会が増えてくると思います。この授業の内容をそのような今後の授業につなげていってくれば担当教員としてはうれしく思います。また、時間に制限があり授業では扱うことのできなかつた興味深いアメリカの文学者が沢山います。今後みなさんが好奇心を持って自分で読書経験を広げてほしいと思います。
Academic English	諏訪 友亮	評価は概ね良好でした。別アンケートであった、最終課題の難易度が急に高くなったという複数の意見に対しては、来年度から改善します。例えば、最終課題の準備ができるタスクを設定してスムーズに最終課題に移行できるようにします。
卒論セミナー b	諏訪 友亮	無事に全員が卒論を提出できました。提出が締切間際にならないよう、来年度以降も学生にはスケジュール管理を徹底してもらいます。
英語圏の詩	諏訪 友亮	授業の「説明は分かりやすかったですか？」ではアンケートに答えてくれた全員がポジティブに回答してくれていましたが、さらに専門的に学びたい、自分で評価をすれば？の設問ではネガティブな回答が一定数ありました。難易度が高めの授業だとは思いますが、皆さんの理解を助けるような仕組み（副教材や資料の充実）を設けて、さらなる学習意欲の向上を図りたいと思います。
Paragraph Writing b	金田 迪子	アンケートにご協力下さった履修者の方には誠にありがとうございました。今年度のアンケートの結果は、授業の進捗や配布資料のわかりやすさを評価して下さった反応もあったものの、総合的には当該科目平均を下回り、経験不足からくる授業の運営力不足に申し訳なく思っております。これまでの本科目の運営では、文法事項等のテクニックの全体への説明に比重を置いていましたが、今年度の授業の経験を経て、添削を中心とした履修者一人一人へのフィードバックに授業の焦点を移していくことの重要性を改めて認識しました。特に作文課題の内容については、それぞれの履修者の皆さんが自身の興味関心に基づいたエッセイを提出して下さいました。それに基づく細かなフィードバックを行えなかったことが大きな反省点として残っています。履修者の皆さんはみな、自身にとって身近な等身大の興味関心について、言語の制約にとらわれずに自己表現を行っていましたが、そのことに対して適切に評価を与えること、さらにその次の段階へのつながりを示すことが不十分であったように思います。この2つの課題を解決するような指導形態を考えていきます。今年度の授業は履修者の平均的な英作文の力が高く、特に後半の授業でドラフトの版を重ねていくことで、きわめて論理的な整合性の高いエッセイに全員が到達することができました。皆さんがこのクラスで示して下さいました到達点を参考に、次年度以降の皆さんの後輩にとって有益な授業を考えていきたいと思っています。半年間積極的に授業に参加して下さいありがとうございました。